
思い出のホイッスル

鷺原シュン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い出のホイッスル

【コード】

N5640P

【作者名】

鷺原シュン

【あらすじ】

アーマゲモンの事件以降元気がないテイルモン

その訳は……………

「え？テイルモンが？」

もうすぐ6年生になる春休みのある日

ヒカリがみんなに相談していた

「そう、どうも最近元気がなくて」

「なんか悩んでるんじゃない？」

パタモンの一言で全員が頭を抱えていた

「ねえ、テイルモンの元気がなくなつたのっていつ頃？」

「アーマゲモンを倒してすぐかな？」

「うーん、あ！もしかしてウィザーモンのことか」

「でも、それじゃアーマゲモンのこととつながらないよ、それ思い出すんならフジテレビに言ったとかそういう……」

結局何も解決しないまま終わってしまった

数日後、珍しく選ばれし子供全員がヒマだったため（主に丈やヤマトといったメンバーの都合がつかないことが多い）みんなでデジタルワールドにピクニックに来た

「はあああああ」

が、やはりテイルモンの元気がなかった

「ねえ、テイルモン、何か困ってるなら相談に乗ってあげようか」

見かねたヒカリが話しかけるとなんとテイルモンは柄にもなく泣きだしてしまった

「ちょ！テイルモン」

「ごめん、ヒカリ……」

「え？何？なんなの？」

「ホイッスル……」

「ホイッスル……ああ！4年前の冒険のときあげた」

一方先にいったグループ

「この先で休憩にしようぜ」

空とヒカリ以外のメンバーはみんな先に進んでいた

「しかし懐かしいな、ここ、俺が初めてブイモンにあったエリアだぜ」

「あ、そういえばそうだ」

「ブイモン今頃気づいたの？」

「大丈夫よテイルモン、だから泣かないで」

「そっか、テイルモンの元気がなかったのはアーマゲモンの事件の時間聞いた音で、そのホイッスルのことを思い出したからなんだ」

しばらくしてテイルモンは泣きやんでくれたがまだ元気がないままだった

昼食時もテイルモンはずっと落ち込んだままだった

一方アルマジモンは既に食べ終わった様子

「あんなにたくさんあったのにもう食べ終わったんですか」

「食い足りんだぎゃ」

「どれだけ食うんだよ」

「アグモンにだけは言われたくないと思うぜ」

「太一ひどい」

「はは、ところでワームモン、母さんにもらった弁当なんだった」

「キャベツが丸ごと」

ワームモンのこの発言で周りの空気が重くなった

「あれ？ここ何かうまつとるだぎゃ？」

するとアルマジモンが地面に何か埋まってるのをみつけた

アルマジモンが興味本位で掘ってみると

「なんだ、ごみだぎゃ」

土だらけの何かが出てきた、それはとても小さかったが……

「あれ？アルマジモン、ちょっとそれ見せて」

タケルに言われてアルマジモンが差し出すと、タケルはしばらくそれを見た

そしてそれをハンカチで拭き始めた

「あ！これって……………」

「はあああああああ」

「すっごいため息」

テイルモンは落ち込んでいてまだ一口も食べていないそれを心配そうに見ているヒカリも

するとヒカリの前に弁当箱が

「ヒカリ、お前も少しは食べるよ」

太一が差し出したのだ

「でも、テイルモンが」

「まあ見てろって、おい！テイルモン！」

太一の声にテイルモンはこっちを向いた

「これ、なんだと思う」

そっぴいながら太一が見せたのは

「お兄ちゃん！それどこで見つけたの！？」

なんと太一が持っていたのはテイルモンが元気がない原因だった無くなったホイッスルだった

「そのところに埋まってたんだ、ひもがないってことは」

「そっか、ひもが切れて落としちゃったんだ」

「埋まっていたのは誰かが気付かず踏んじやったからなんだろうな」

そう言ってテイルモンにそれを差し出す

「よかった、本当によかった」

テイルモンは泣きながらそれを抱いていた

そして19年後

「いいの？」

テイルモンはホイッスルをヒカリの息子に与えていた

「うん、これはもともとあなたのお母さんにもらったものだから
もちろんこのことはヒカリも知っている

その証拠に彼のパートナーのプロットモンと一緒にドアの外から覗
いていた

「ありがとうテイルモン、大事にするね」

そう言っただけは走って行った

一方テイルモンはただその場に立っていた

このまま次の世代へ引き継がれていくことを願って

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5640p/>

思い出のホイッスル

2011年3月2日21時04分発行